

教科化に向けての動き



これまでの道徳教育の実態の課題【道徳に係る教育課程の改善等について（答申）】（平成26年10月）

- 道徳の時間は、各教科に比べて軽視されがちで、道徳教育の要として有効に機能していないことも多く、このことが道徳教育全体の停滞につながっている。
- 道徳の時間において、読み物の登場人物の心理理解のみに偏った形式的な指導が行われている。
- 発達の段階などを十分に踏まえ、児童生徒に望ましいと思われる分かりきったことを言わせたり書かせたりする。
- 学校や教員によって指導の格差が大きい。



小学校、中学校の教育課程における「道徳」を「特別の教科 道徳」と改正 【一部改正学習指導要領】（平成27年3月）

1 具体的なポイント

- ・ 道徳科に検定教科書を導入
- ・ 内容については、いじめ問題への対応の充実や発達の段階を一層踏まえた体系的なものに改善
- ・ 問題解決的な学習や体験的な学習などを取り入れ、指導方法を工夫
- ・ 数値などによる評価ではなく、児童生徒の道徳性に係る成長の様子を把握
- ・ 発達段階に応じ、答えが一つではない課題を一人一人の児童生徒が道徳的な問題と捉え向き合う「考える道徳」「議論する道徳」に転換
 - ※「考える道徳」 主体的に自分との関わりで考える
 - ※「議論する道徳」 自分の考え、他者の考えを授業の中で交流する中で、道徳的価値について、内省し、熟慮し、自らの考えを深める

2 施行期日

- ・ 小学校 平成30年4月1日、中学校 平成31年4月1日から施行
- ・ 平成27年4月1日から、一部改正学習指導要領の趣旨を踏まえた取組が可能

3 道徳科の評価

- 意義
 - ・ 児童生徒のよい点や進歩の状況などを評価し、児童生徒の学習意欲の向上に生かすこと
 - ・ 指導の過程を評価し、教師の指導改善に生かすこと
- 評価の方向性（平成27年7月学習指導要領解説 特別の教科道徳編より抜粋）
 - ・ 数値などによる評価ではなく、記述式であること
 - ・ 他の児童生徒との比較による相対評価ではなく、児童生徒がいかに成長したかを積極的に受け止め、励ます個人内評価として行うこと
 - ・ 個々の内容項目ごとではなく、大きくくりなまとまりを踏まえた評価を行うこと

平成27年度愛知県道徳教育推進会議協議題

「特別の教科 道徳」の実施を見据えた道徳教育の充実 —子どもを捉え、よさを伸ばす道徳の時間の在り方—

＜協議内容設定の理由＞

学習指導要領の一部改正により「特別の教科 道徳」と位置付けられ、「児童生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子を継続的に把握し、指導に生かすよう努める必要がある」ことが示されており、その実施を見据え、児童生徒のよさを伸ばす道徳の時間の在り方について協議を行いました。



＜愛知県道徳教育推進会議からの提言＞

- 学校教育全体を通じて子どもの実態を捉えます。
- 子どもが主体的にねらいに迫る道徳の時間を繰り返し実践していくことで、子どものよさを伸ばします。
- ※ 詳細は次ページを御確認ください。

愛知県教育委員会では、本県の学校における道徳教育をより効果的に推進するとともに、道徳教育の充実・振興に向けて県民全体で取り組む機運を醸成するために、愛知県道徳教育推進会議を開催しています。



みんなで子どもの心を育むために
愛知県教育委員会道徳教育総合推進サイト「モラルBOX」を御覧ください！

モラルBOX

検索

← クリック

愛知県道徳教育推進会議
愛知県教育委員会

豊川市立御油小学校

＜教材の工夫＞

- 子どもの心に響く授業をするためには、教員が感動した出来事や興味をひかれた素材など、身近な生活から気付き、教材にすることも大切です。
- 年間指導計画と照らしながら、社会の出来事、地域の行事、地域の人材を教材として取り上げます。



【ゲストティーチャーと交流する】

半田市立半田中学校

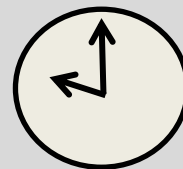
＜多様な指導方法の工夫＞

- 道徳的な問題や価値などに注目して、教材を深く読み取ります。
- 子どもの実態に合わせ、討論の柱を立てた授業や問題解決的な学習を取り入れた授業など授業構成を工夫し、発問を考えます。



【グループで意見を交流する】

子どもを捉え、よさを伸ばす道徳の時間の在り方



- 学校教育全体を通じて子どもの実態を捉えます。

【子どもを捉えるために】

子どもの発言・行動・またその背景を捉えていきます。

- 子どもが主体的にねらいに迫る道徳の時間を繰り返し実践していくことで、子どものよさを伸ばします。

【ねらいに迫る道徳の時間にするために】

- ・ 改訂された学習指導要領の道徳科の目標を見据え、授業を実践します。

＜道徳科の目標＞

道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を（広い視野から）多面的・多角的に考え、自己の（人間としての）生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。 ※（ ）は中学校

【主体的に取り組む道徳の時間にするために】

- ・ 子どもの実態に合わせ、学習指導の工夫を取り入れます。
（工夫例は研究推進校の実践参照）

道徳教育を充実させるためのポイント

チェック <input type="checkbox"/>	誰もが安心して自分の考えを語れる学級の雰囲気づくり ・ 子ども同士、子どもと教員の良好な人間関係を築きましょう。
チェック <input type="checkbox"/>	学校の全ての教員で取り組むプランづくり ・ 全ての教員の共通理解に立った実践ができるように全体計画などを充実させましょう。
チェック <input type="checkbox"/>	家庭や地域社会との連携強化 ・ 学校での取組を情報発信し、保護者も地域の方も同じ視点で子どもを育むようにしましょう。

安城市立安城南中学校

＜話し合いの工夫＞

- 子ども同士の思いや考えをつなげ、深めるための的確な授業のコーディネートを行います。
- 例
- ・ 任せる、見守る
 - ・ 認める、評価する、生かす、気付かせる、焦点化する、提案する
 - ・ 軌道修正する、断ち切る
 - ・ ゆさぶる、切り返す



【自分の思いを伝える】

一宮市立小信中島小学校

＜動作化、役割演技等の表現活動の工夫＞

- 動作化や役割演技等を取り入れ、登場人物の心情に共感させます。後段で取り入れるときは、価値観にじっくり浸らせたり、道徳的価値に対する理解を更に深めたりします。



【役割演技に取り組む】